

# 国指定史跡高宮廃寺跡内容確認発掘調査 現地説明会資料

平成 29 年 2 月 18 日（土）

寝屋川市教育委員会 文化スポーツ室

## はじめに

高宮廃寺跡は寝屋川市の南東部の高宮 2 丁目に所在する国指定史跡です。寝屋川市東部は生駒山地から西側にのびる標高約 30~50m の丘陵が広がっており、遺跡はこの丘陵上で南に向かって緩やかに低くなる傾斜地上に立地しています。

この地には延喜式内社の大杜御祖神社が鎮座しており、現在寺域のほとんどが神社の境内地となっています。境内には堂塔の基壇と考えられる高まりや礎石が残されており、昔から古代寺院跡の存在が知られていました。

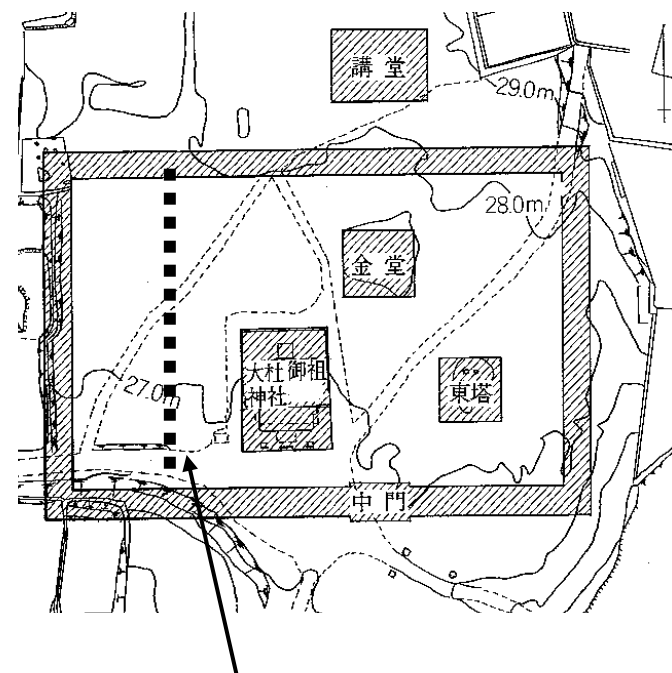
高宮廃寺跡周辺では寺院を造営した氏族が居住したと考えられる高宮遺跡が広がっており、丘陵上で最も見渡しのよい頂上部に氏寺があり、それに並存する形で氏族が居住していた様子がうかがえます。

## これまでの調査

昭和 28 年に大阪府教育委員会により東塔の発掘調査が、昭和 54 年には寝屋川市教育委員会による主要伽藍の位置確認と遺跡の範囲の確認を目的とした発掘調査が行われました。この調査成果より、昭和 55 年に国の史跡に指定されました。

出土した瓦から、白鳳時代（7 世紀後半）に創建され、奈良時代にかけて営まれたあと廃絶し、中世に一時再建されたと考えられます。

史跡指定以来、神社の境内地ということもあり現状で保存されてきました。



※破線部分は H27 に検出した西塀の位置

高宮廃寺跡伽藍配置図  
『寝屋川市史』第 1 巻より抜粋・加筆

市では史跡の保存・活用のための計画を策定するために、平成 25 年度より史跡の内容確認発掘調査を行っており、今年度で 4 年目となります。

## 今年度の調査成果（※裏面参照）

### ○講堂調査区について（講堂 1~3）

中世に再建された建物跡を検出しました。建物の基壇（基礎）は復元すると東西 16.5 m、南北 13.5m と考えられます。柱の位置の分かる遺構を検出できなかったため、基壇の上に建っていた建物規模は不明です。

講堂 3 の基壇南辺付近では、土器（土師器）が重なった状態で見つかっており、基礎を築盛する際に行われた地鎮の痕跡と考えられます。

講堂 1 では瓦が屋根から重なり落ちた状態で見つかりました。焼けた瓦や炭の層（講堂 2）も合わせて確認できたことから、再建された建物は罹災し倒壊したと考えられます。

### ○北回廊調査区について（北回廊 1・2・旧トレンチ）

平成 27 年度に検出した西塀の続きを確認するために北回廊の調査区を設定しました。しかし、北回廊部分は神社の境内地からはずれており、後世の耕作などによる破壊を受けていたため明確な遺構は確認できませんでした。

### ○金堂調査区について（金堂 1）

金堂基壇の版築状況の再確認と金堂前面部分（参道遺構など）の状況を確認するために、2 か所に調査区を設定しました。金堂前面では寺院に関わる遺構の検出はできませんでしたが、金堂 1 で行った基壇の断ち割り調査では明瞭な版築が確認できました。

## おわりに

平成 25 年度から 4 カ年計画で行ってきた高宮廃寺跡の内容確認発掘調査ですが、今年度で最期の調査となりました。この 4 年間で過去の調査以上の様々な調査成果がありました。今後、これらの調査成果をまとめ、史跡の内容を解明するとともに、史跡の保存・活用に向けた計画を策定していく予定です。